

2023年3月期 第3四半期

# 決算説明会資料

---

三井倉庫ホールディングス株式会社（証券コード：9302）  
2023年2月15日



**MITSUMI-SOKO  
GROUP**

# 目次

- ▶ **エグゼクティブ・サマリー**
- 2023年3月期 第3四半期累計 決算内容
- 2023年3月期 決算見通し
- 株主還元
- Appendix.1 財務数値詳細
- Appendix.2 会社概要

23/3期  
3Q累計  
実績

物流事業における売上拡大、収益性向上により増収増益

営業収益	<b>2,343</b> 億円	前年同期比	<b>+8.1%</b>
営業利益	<b>213</b> 億円	前年同期比	<b>+17.6%</b>

23/3期  
通期累計  
見通し

サプライチェーン混乱の収束ペース鈍化、物流事業が堅調に推移する見込み  
前回予想を上方修正し、3期連続で過去最高益を更新する見通し

営業収益	<b>3,055</b> 億円	前回予想比	<b>+0.2%</b>
営業利益	<b>260</b> 億円	前回予想比	<b>+6.1%</b>

株主還元

通期見通しの上方修正を期末配当予想に反映、増配

中間配当	<b>72</b> 円（実績）		
期末配当	<b>115</b> 円（予想）	前回予想比	<b>+6</b> 円
年間配当	<b>187</b> 円（予想）	予想配当性向	<b>30.0%</b>

# 目次

- エグゼクティブ・サマリー
- ▶ **2023年3月期 第3四半期累計 決算内容**
  - ・ 第3四半期実績（累計）の概要
  - ・ セグメント別業績
  - ・ 営業利益増減要因
  - ・ キャッシュフローの状況
  - ・ バランスシートの状況
- 2023年3月期 決算見通し
- 株主還元
- Appendix.1 財務数値詳細
- Appendix.2 会社概要

- 物流事業の売上拡大、及び収益性向上により、前年同期比増収増益

（単位：億円）

連結合計	22/3期 3Q	23/3期 3Q	前年同期比	増減率
営業収益	2,168	<b>2,343</b>	+175	+8.1%
営業利益	181	<b>213</b>	+32	+17.6%
経常利益	182	<b>221</b>	+39	+21.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	103	<b>132</b>	+29	+27.9%

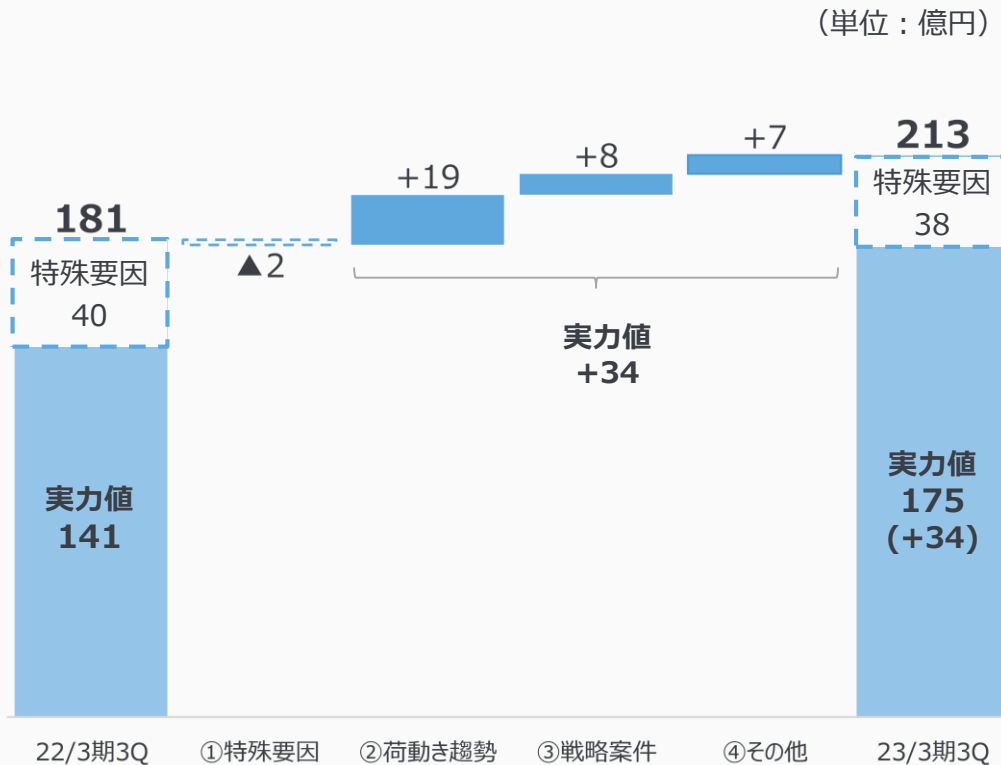
- 物流事業は以下を主因に増収増益と利益率向上を実現
  - 海上から航空輸送へのシフトや航空運賃の高止まりが3Qまでは継続、収益性が向上
  - 変化する顧客の物流ニーズを的確に捉え、代替輸送や物流効率化といったソリューション提案および機動的なスペース確保に注力、新規取引獲得や既存顧客の受託範囲拡大
- 不動産事業は安定的に推移し、前年同期並みの業績

(単位：億円)

事業セグメント		22/3期 3Q	23/3期 3Q	前年同期比	増減率
物流事業	営業収益	2,102	<b>2,278</b>	+175	+8.3%
	営業利益	164	<b>196</b>	+32	+19.8%
不動産事業	営業収益	71	<b>71</b>	+1	+0.7%
	営業利益	43	<b>44</b>	+1	+2.3%
全社・消去	営業収益	▲6	<b>▲6</b>	▲0	—
	営業利益	▲25	<b>▲27</b>	▲1	—
連結合計	営業収益	2,168	<b>2,343</b>	+175	+8.1%
	営業利益	181	<b>213</b>	+32	+17.6%

- 物流事業は、フォワーディング（FWD）業務収入、及び海外における保管・運送業務の収入が増加
- 仕入れコストコントロールが奏功、利益率向上
- 前期に立ち上げた新設物流施設が通期寄与

- 海上から航空輸送へのシフトや航空運賃高止まりは3Qまでは一定レベルで継続するも、特殊要因は前年同期と比較すると減少
- 顧客ニーズを捉えたソリューション提案が奏功、家電関連でオリパラ需要の反落影響はあるも、FWD・海外物流の増加や戦略投資案件の通期寄与等を主因に、実力値は前年同期比34億円増加



①特殊要因 (▲2)

- ↓：海上コンテナ不足に伴う航空輸送シフト及び航空運賃高止まりは徐々に収束 : ▲ 2

②荷動き趨勢 (+19)

- ↑：海上・航空FWD業務 定常輸送取扱増加 : + 16
- ↑：海外における保管・運送業務取扱増加 : + 5
- ↑：港湾運送業務コンテナ取扱増加 : + 3
- ↑：ヘルスケア物流 新規業務の開始 : + 2
- ↓：家電関連物流取扱減少 (前期オリパラ需要反動減等を含む) : ▲ 7

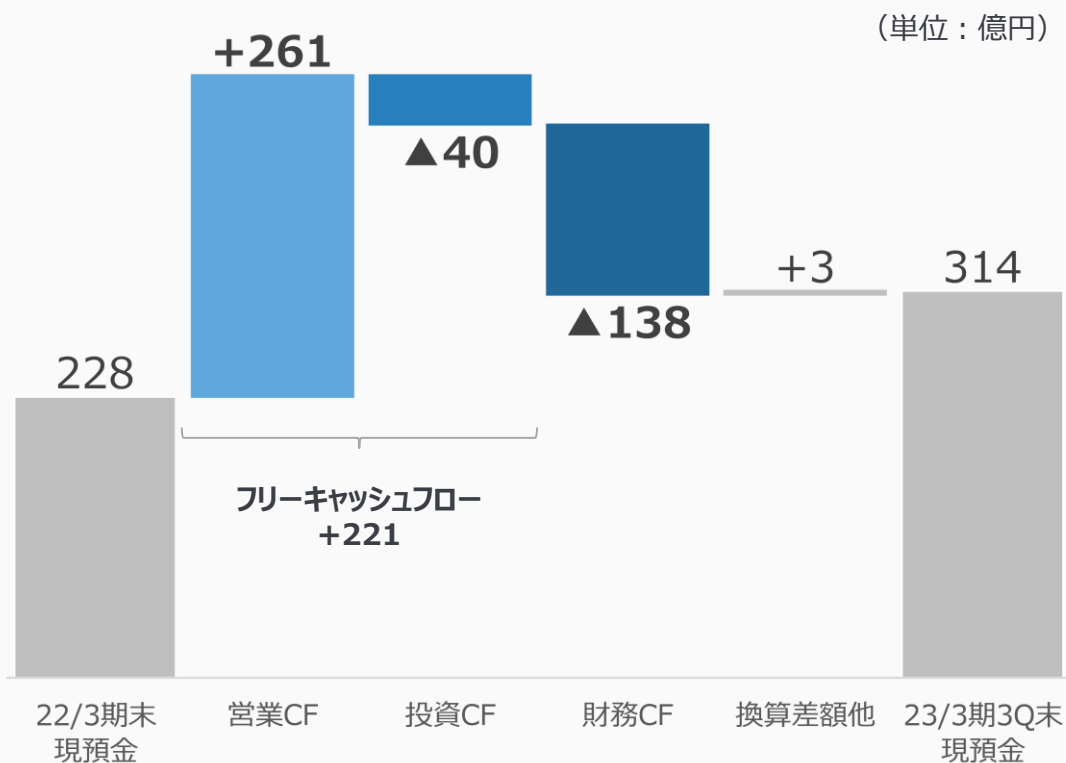
③戦略投資案件 (+8)

- ↑：ヘルスケア物流専用倉庫の通期寄与、初期費用の解消 : + 3
- ↑：新設物流センターの稼働開始に伴うEC業務拡大、及び立上に伴うコンサルティングフィー収受 : + 5

④その他 (+7)

- ↑：為替影響 : + 5
- ↑：のれん償却費減少 : + 2

- 営業キャッシュフローは純利益の計上と売掛金の回収を主因に261億円のキャッシュイン
- DX戦略に基づくソフトウェア投資、及び物流施設の維持更新投資を実行
- フリーキャッシュフローは借入金返済と株主還元に充当



## キャッシュ・フローの主な内訳

• 営業CF	:	<b>+261</b>
税金等調整前純利益	:	+226
減価償却費／のれん償却費	:	+73
売上債権／仕入債務の増減	:	+28
法人税等	:	▲72
• 投資CF	:	<b>▲40</b>
設備投資	:	▲21
ソフトウェア投資	:	▲20
(小計) フリーキャッシュフロー	:	<b>+221</b>
• 財務CF	:	<b>▲138</b>
借入金・社債増減 (ネット)	:	▲73
配当金支払	:	▲41
• 現預金の増減合計	:	<b>+86</b>



## 業績好調により自己資本比率やD/Eレシオが改善

(単位：億円)

連結合計	22/3期末	23/3期 3Q末	前期末比
総資産	2,583	<b>2,599</b>	+ 16
現金及び預金	231	<b>317</b>	+ 86
売上債権	412	<b>355</b>	▲ 56
有形・無形固定資産	1,482	<b>1,493</b>	+ 11
有利子負債 (リース債務含)	994	<b>947</b>	▲ 47
借入金・社債	940	<b>870</b>	▲ 70
リース債務	54	<b>77</b>	+ 23
自己資本	795	<b>897</b>	+ 103
自己資本比率	30.8%	<b>34.5%</b>	+ 3.8
D/Eレシオ	1.25	<b>1.06</b>	▲ 0.20

- 業績好調、及び売上債権の減少（回収）により、主に海外現法において現預金が増加
- DX戦略に基づくソフトウェア投資を実行し、無形固定資産が増加
- マテハン機器の取得をリースにより行ったためリース債務が増加
- 自己資本の増減理由は、当期利益+132億円、配当▲41億円、等

# 目次

- エグゼクティブ・サマリー
- 2023年3月期 第3四半期累計 決算内容
- ▶ **2023年3月期 決算見通し**
  - ・ 通期見通しの概要
  - ・ 四半期毎の業績推移
  - ・ セグメント別業績見通し
  - ・ キャッシュフロー見通し
  - ・ バランスシート見通し
- 株主還元
- Appendix.1 財務数値詳細
- Appendix.2 会社概要

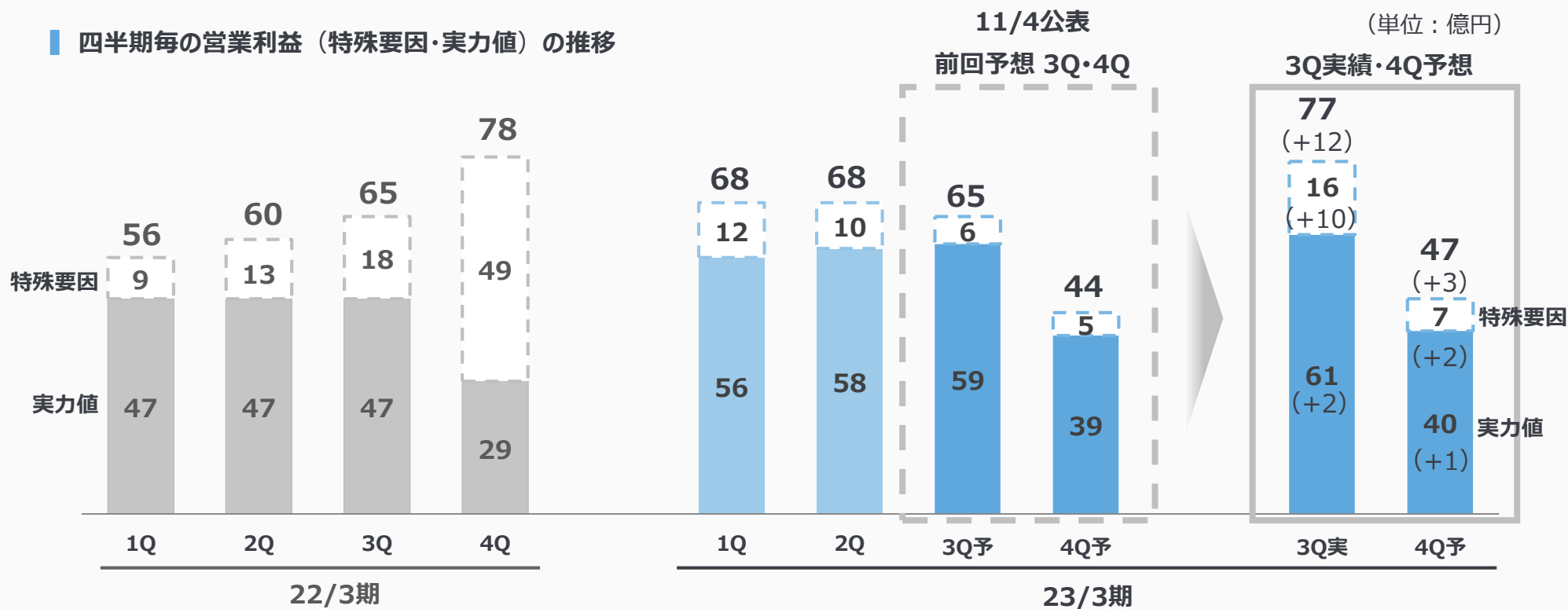
- 足元の事業環境を踏まえ、前回予想（11月4日公表）を上方修正、過去最高益を更新見込み
  - サプライチェーン混乱収束ペースが想定よりも鈍化、特殊要因のプラス効果を上積み
  - 機動的スペース確保とコストコントロールにより収益性向上（特殊要因）
  - 実力値も物流ソリューション営業を通じた取扱拡大により堅調に推移

(単位：億円)

連結合計	前回予想	23/3期 予想	前回予想比	増減率
営業収益	3,050	<b>3,055</b>	+ 5	+ 0.2%
営業利益	245	<b>260</b>	+ 15	+ 6.1%
経常利益	249	<b>264</b>	+ 15	+ 6.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	150	<b>155</b>	+ 5	+ 3.3%

- ・ サプライチェーン混乱の収束ペースが鈍化し、特殊要因が増加 (一過性の利益率向上を含む)
- ・ 実力値は、ソリューション提案活動が奏功、FWD・海外物流の取扱好調を主因に堅調に推移

四半期毎の営業利益 (特殊要因・実力値) の推移



通期累計数値	22/3 実績	23/3 前回予想	23/3 今回予想
特殊要因	89	33	45
実力値	170	212	215
連結合計	259	245	260

上方修正内容 (前回予想比)	3Q実	4Q予
航空輸送等特殊要因	+10	+2
為替影響	+1	-
FWD・海外物流取扱好調等	+1	+1
	+12	+3

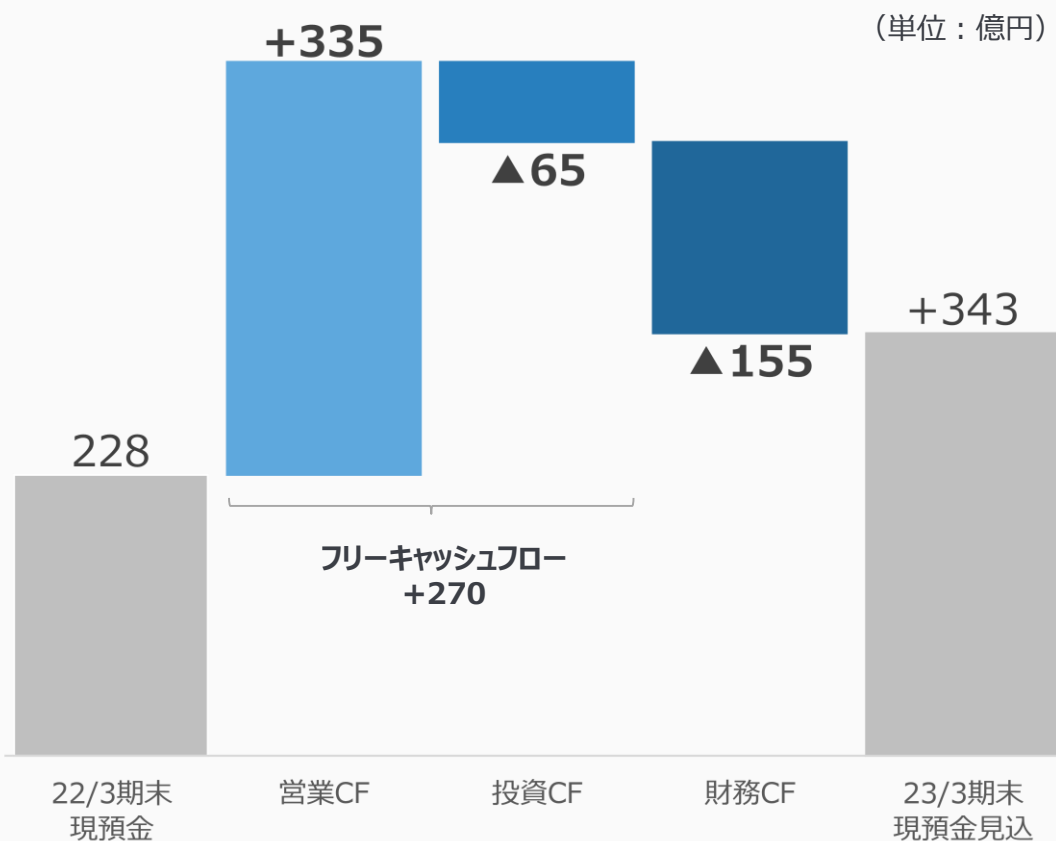
- 物流事業は、緊急輸送等の特殊要因は減少も、実力値は伸長し前期比増収増益
- 不動産事業は通期で前期並みの見通し

（単位：億円）

事業セグメント		22/3期 実績	23/3期 予想	前期比	増減率
物流事業	営業収益	2,922	<b>2,966</b>	+44	+1.5%
	営業利益	237	<b>241</b>	+4	+1.5%
不動産事業	営業収益	96	<b>96</b>	+0	+0.4%
	営業利益	58	<b>58</b>	+0	+0.0%
全社・消去	営業収益	▲8	<b>▲7</b>	+1	—
	営業利益	▲36	<b>▲39</b>	▲3	—
連結合計	営業収益	3,010	<b>3,055</b>	+45	+1.5%
	営業利益	259	<b>260</b>	+1	+0.2%

- 不動産事業のテナントの動向に変化なし。

- 好調な業績を受け、営業キャッシュフローは335億円のキャッシュインを見込む
- DX投資、及び物流施設の維持更新投資の実行を想定



## キャッシュ・フローの主な内訳 (予想)

• 営業CF	:	<b>+335</b>
税金等調整前純利益	:	+269
減価償却費/のれん償却費	:	+100
• 投資CF	:	<b>▲65</b>
設備投資	:	▲30
ソフトウェア投資	:	▲35
(小計) フリーキャッシュフロー	:	<b>+270</b>
• 財務CF	:	<b>▲155</b>
借入金・社債増減 (ネット)	:	▲85
配当金支払	:	▲41
• 現預金の増減合計	:	<b>+115</b>

- 引き続き業績好調により自己資本比率やD/Eレシオは改善の見通し
- 財務規律目標のD/Eレシオ1倍を目線に運用

(単位：億円)

連結合計	22/3期末 実績	23/3期末 予想	前期末比
総資産	2,583	<b>2,645</b>	+ 62
現金及び預金	231	<b>345</b>	+ 114
売上債権	412	<b>350</b>	▲ 62
有形・無形固定資産	1,482	<b>1,390</b>	▲ 92
有利子負債 (リース債務含)	994	<b>930</b>	▲ 64
借入金・社債	940	<b>855</b>	▲ 85
リース債務	54	<b>75</b>	+ 21
自己資本	795	<b>920</b>	+ 125
自己資本比率	30.8%	<b>34.8%</b>	+ 4.0
D/Eレシオ	1.25	<b>1.01</b>	▲ 0.24

• 海外現地法人の業績好調、及び売上債権の減少（回収）により現預金が増加。来期以降に投資への充当を予定

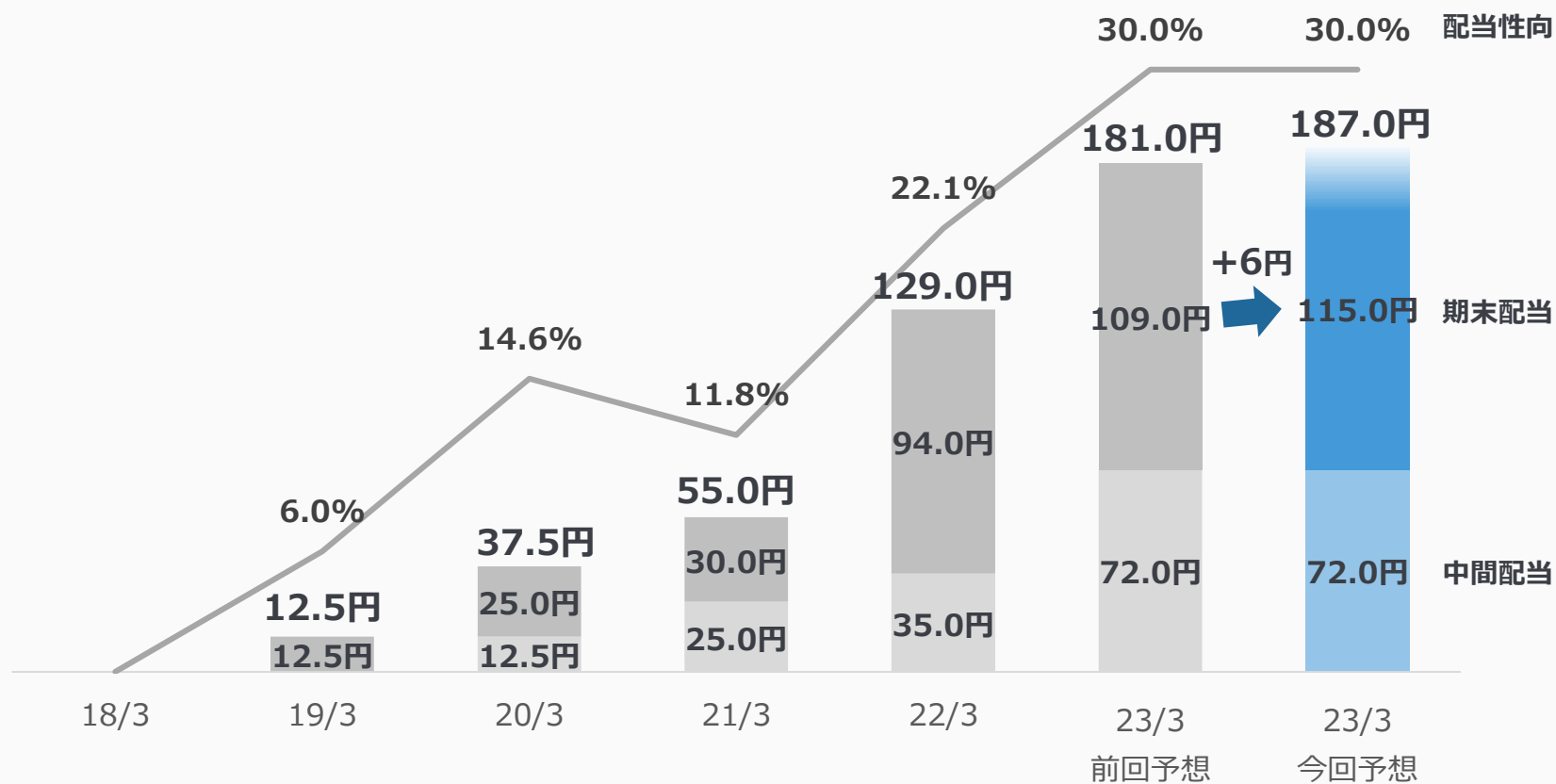
• 借入金の返済により、有利子負債は減少する見込み  
 • マテハン機器の取得に伴いリース債務は増加見込み

## 目次

- エグゼクティブ・サマリー
- 2023年3月期 第3四半期累計 決算内容
- 2023年3月期 決算見通し
- ▶ **株主還元**
- Appendix.1 財務数値詳細
- Appendix.2 会社概要



- 年間配当性向30%を基準に、業績に連動した機動的な配当
- 業績の上振れを期末配当予想に反映（前回予想比+6円の増配）



# 目次

- エグゼクティブ・サマリー
- 2023年3月期 第3四半期累計 決算内容
- 2023年3月期 決算見通し
- 株主還元
- ▶ **Appendix.1 財務数値詳細**
  - ・ 四半期毎業績推移
  - ・ 連結損益 実績
  - ・ 連結損益 見通し
- Appendix.2 会社概要

(単位：億円、端数四捨五入)

連結合計	22/3期		前年同四半期		通期累計	23/3期		直前四半期	3Q	YoY	QoQ
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q				
営業収益	683	717	767	843	3,010	786	787	<b>771</b>	+0.4%	▲2.0%	
物流事業	664	694	744	820	2,922	766	764	<b>748</b>	+0.5%	▲2.1%	
不動産事業	21	25	25	25	96	22	25	<b>25</b>	+0.4%	▲0.1%	
全社・消去	▲2	▲2	▲2	▲2	▲8	▲2	▲2	<b>▲2</b>	+6.6%	▲0.0%	
営業利益	56	61	65	78	259	68	69	<b>77</b>	+17.9%	+11.2%	
物流事業	51	54	59	74	237	63	62	<b>71</b>	+21.6%	+14.5%	
不動産事業	12	15	15	15	58	13	16	<b>16</b>	+1.6%	+0.0%	
全社・消去	▲8	▲9	▲9	▲11	▲36	▲8	▲9	<b>▲10</b>	+14.2%	+14.8%	
経常利益	56	61	65	73	256	71	73	<b>77</b>	+17.9%	+4.9%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	32	35	36	42	145	48	44	<b>40</b>	+12.5%	▲8.5%	

(単位：億円)

連結合計	22/3期 3Q	23/3期 3Q	前年同期比
営業収益	2,168	<b>2,343</b>	+175
営業利益	181	<b>213</b>	+32
営業外損益	1	<b>8</b>	+7
金融収支	▲3	▲1	+1
その他	3	<b>9</b>	+6
経常利益	182	<b>221</b>	+39
特別利益	—	<b>5</b>	+5
特別損失	—	—	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	103	<b>132</b>	+29

• 受取利息・配当（5億円）、支払利息（7億円）共にほぼ前期並みの水準

• 為替差益+4億円

• 積立超過となっていた従業員の退職給付に係る資産（退職給付信託財産）の一部を事業主である当社に返還、特別利益5億円を計上

(単位：億円)

連結合計	22/3期 実績	23/3期 予想	前期比
営業収益	3,010	<b>3,055</b>	+45
営業利益	259	<b>260</b>	+1
営業外損益	▲4	4	+8
金融収支	▲4	▲4	+0
その他	0	8	+8
経常利益	256	<b>264</b>	+8
特別利益	—	5	+5
特別損失	—	—	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	145	<b>155</b>	+10

・ 4Qに特別利益・特別損失は見込んでいない。

# 目次

- エグゼクティブ・サマリー
- 2023年3月期 第3四半期累計 決算内容
- 2023年3月期 決算見通し
- 株主還元
- Appendix.1 財務数値詳細
- ▶ **Appendix.2 会社概要**
  - ・ 三井倉庫グループ PURPOSE について
  - ・ 沿革・主要サービス・ビジネスモデル・収益構造
  - ・ 市場環境・競合
  - ・ コアコンピタンス
  - ・ 事業計画・経営指標
  - ・ 社外からの主な評価（ESG・投資指数）

# PURPOSE

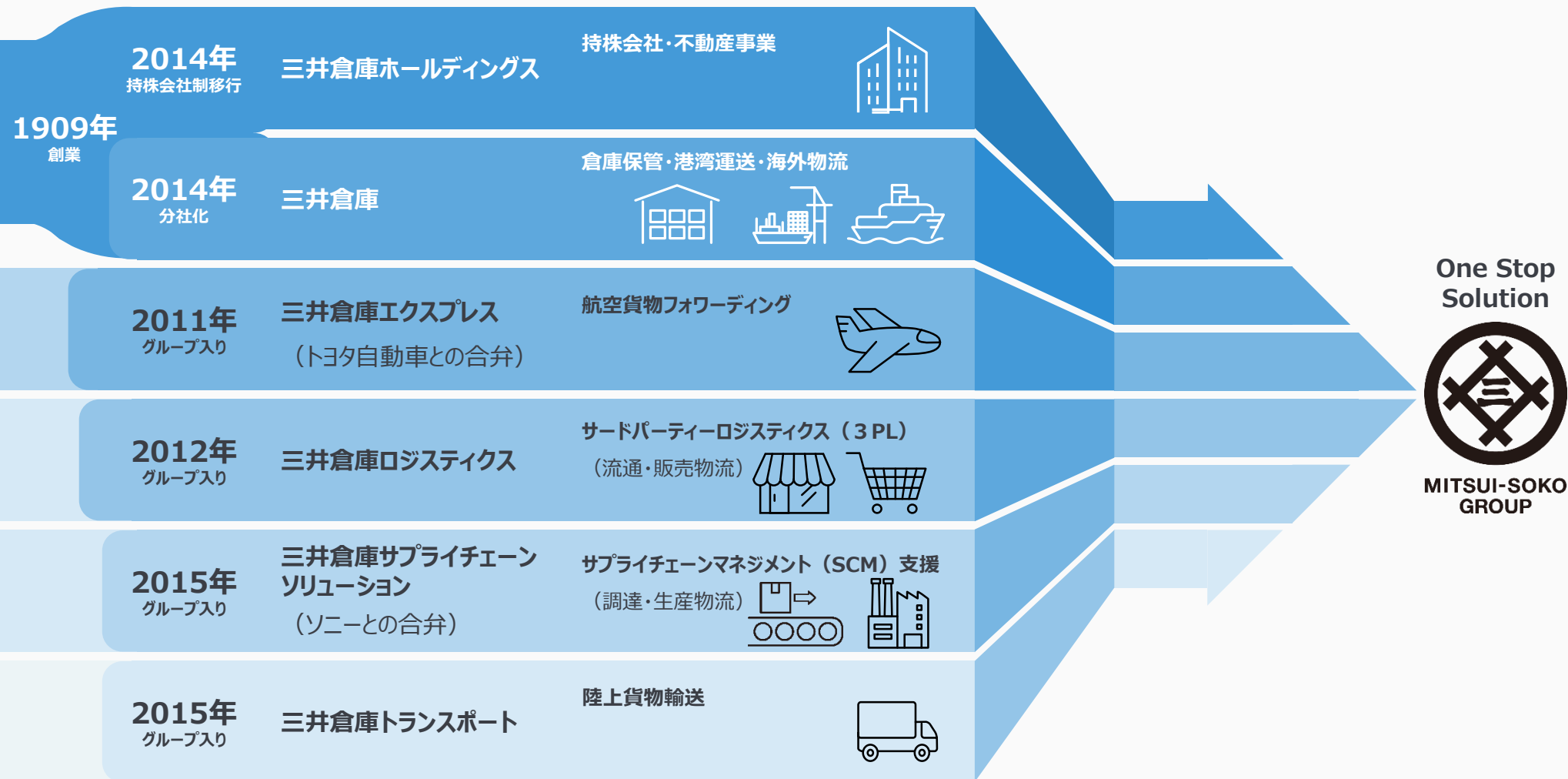
私たちの存在意義



## 「社会を止めない。進化をつなぐ。」

物流が果たす役割は、単にモノを預り、運ぶに留まらないと私たちは考えます。それは人と人、産業と産業、国と国など、あらゆるものをつなぐ太いパイプであり、社会を根底から支えるインフラとしての重要な役割を担っています。そして物流が構築する揺るぎない基盤の上に、人々の毎日の暮らしがあり、経済の活発な営みがあり、社会は新陳代謝をくり返しながらか進化を続けていきます。「社会を止めない。進化をつなぐ。」まさにこのために三井倉庫グループは存在しています。創業から100年以上の永きにわたり、私たちは物流を軸に時代のニーズに応じて業容を拡大し、社会の進化につなげてまいりました。変化の激しいこれからの時代において、物流が果たす役割はますます大きくなっています。世界をより良い方向へ動かし、心豊かで持続可能な社会を実現するために、今日も私たちは物流の未来を見据えて活動しています。

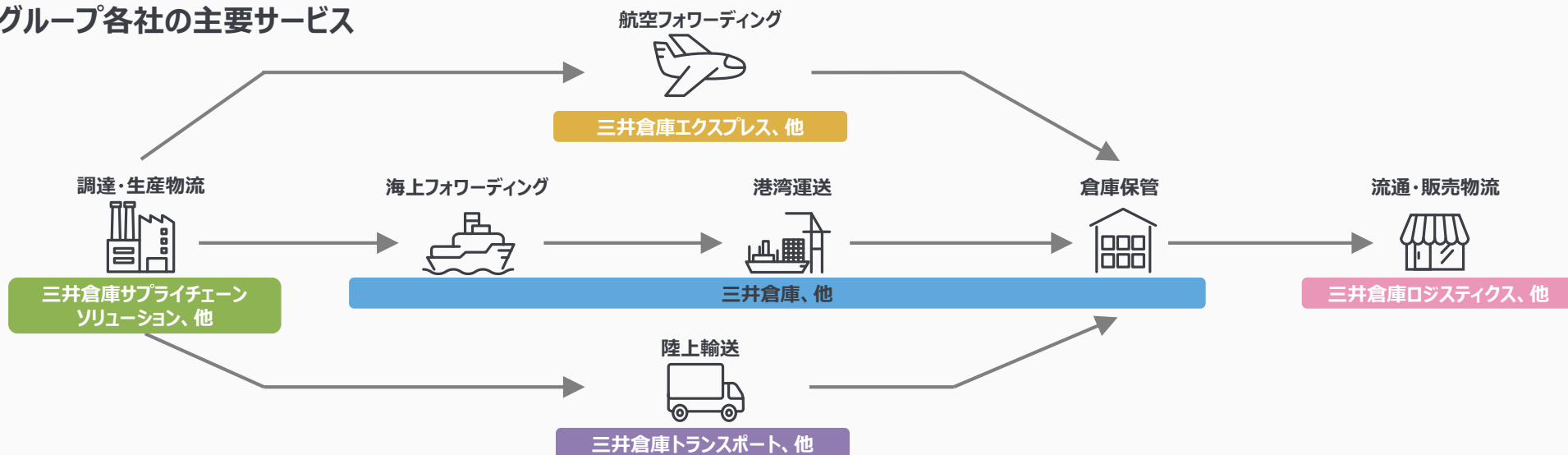
# フルスペック物流を実現した三井倉庫グループ





# フルスペックの物流機能で一気通貫の物流サービスを提供

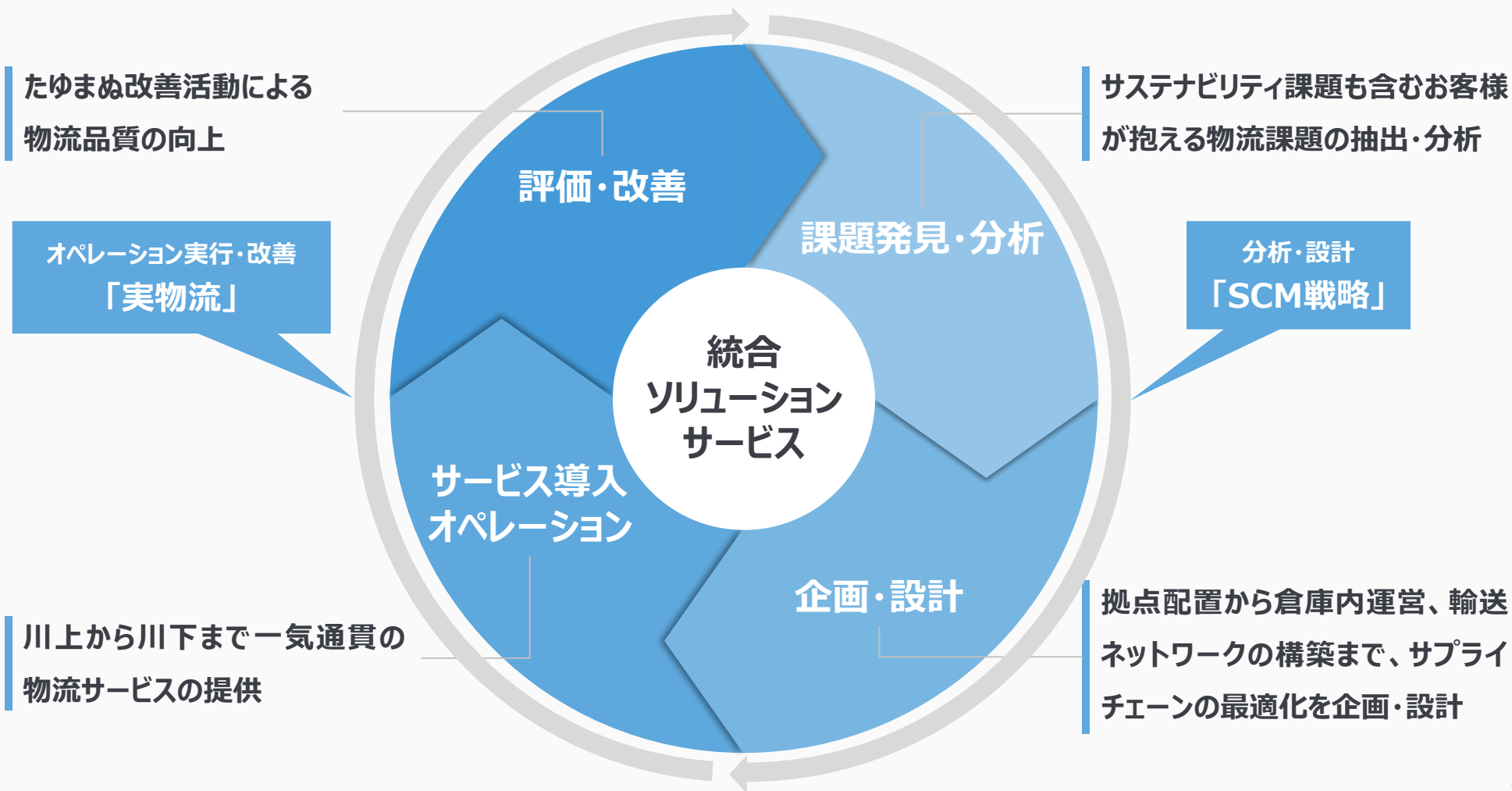
## グループ各社の主要サービス



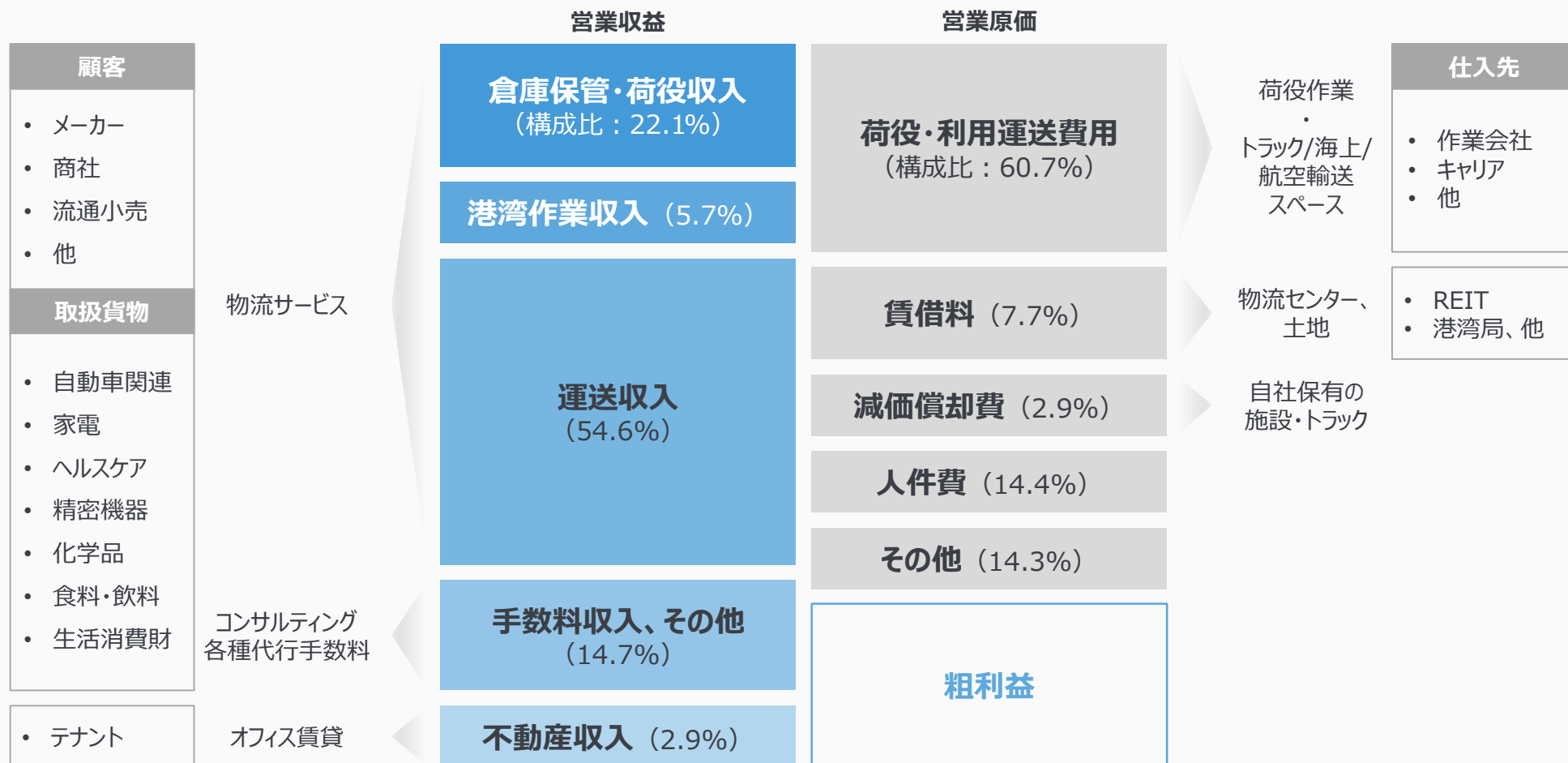
## 三井倉庫グループの主要な物流領域

業種	バリューチェーン			完成品			流通	
	調達物流	生産物流	販売物流	調達物流	生産物流	販売物流	調達物流	販売物流
ヘルスケア								
自動車関連								
家電								
精密機器・機械								
生活消費財								
住居・インテリア								
食料・飲料								
アパレル								
紙・パルプ								
化学品								

- お客様のサプライチェーン全体を俯瞰した最適物流を実現する、「統合ソリューションサービス」を提供



- ・ 実物流サービスと、コンサルティングの提供による収入
- ・ 所有アセットを活かした不動産賃貸収入

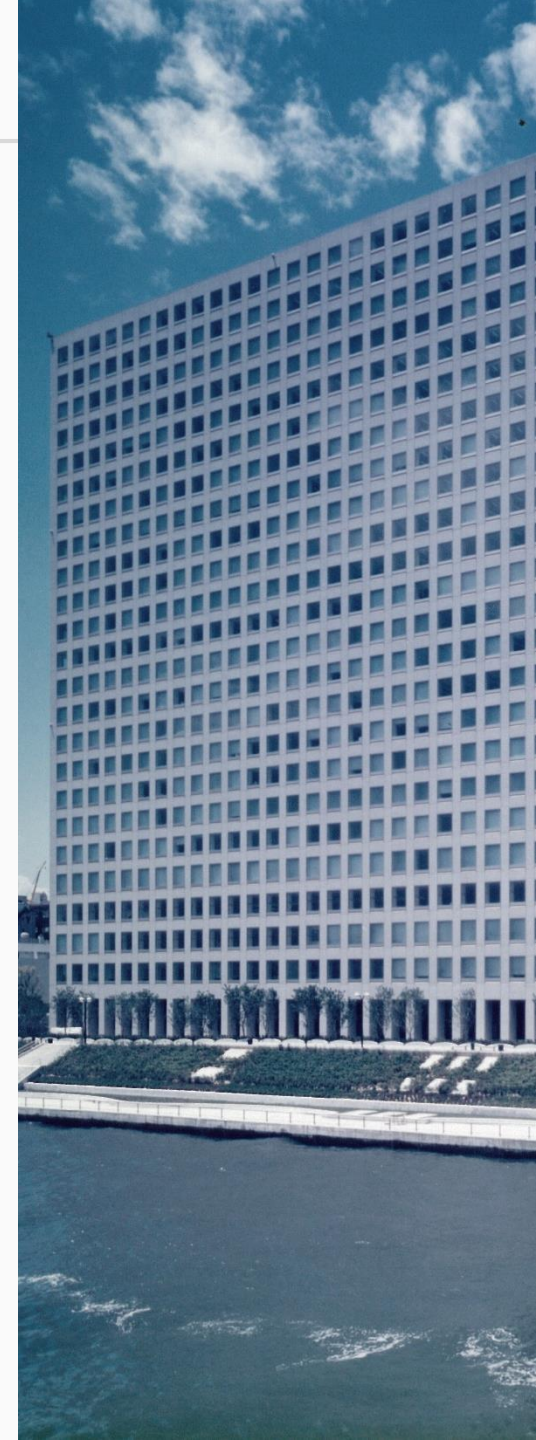


- ・ 経年により物流用途に適さなくなった土地を  
オフィス・レジデンスとして収益化し管理

### 用途別の物件一覧

用途	エリア	物件名	延床面積
オフィス	東京	三井倉庫箱崎ビル	135,608㎡
		MSCセンタービル	32,507㎡
		MSC御成門ビル	10,516㎡
		MSC深川ビル	14,199㎡
		MSC深川ビル2号館	22,046㎡
計		5物件	214,876㎡

用途	エリア	物件名	賃貸戸数
レジデンス	東京	リバー＆タワー	99 戸
		パークアクシス御成門	52 戸
	大阪	ポートヴィラ靱公園	108 戸
計		3物件	259 戸



- 顧客の状況：急速な環境変化による、ビジネスの急変化に直面
- 顧客の課題：物流の構築がビジネスの変化に追いついていない

✓ 三井倉庫グループが最適物流を提供し課題を解決

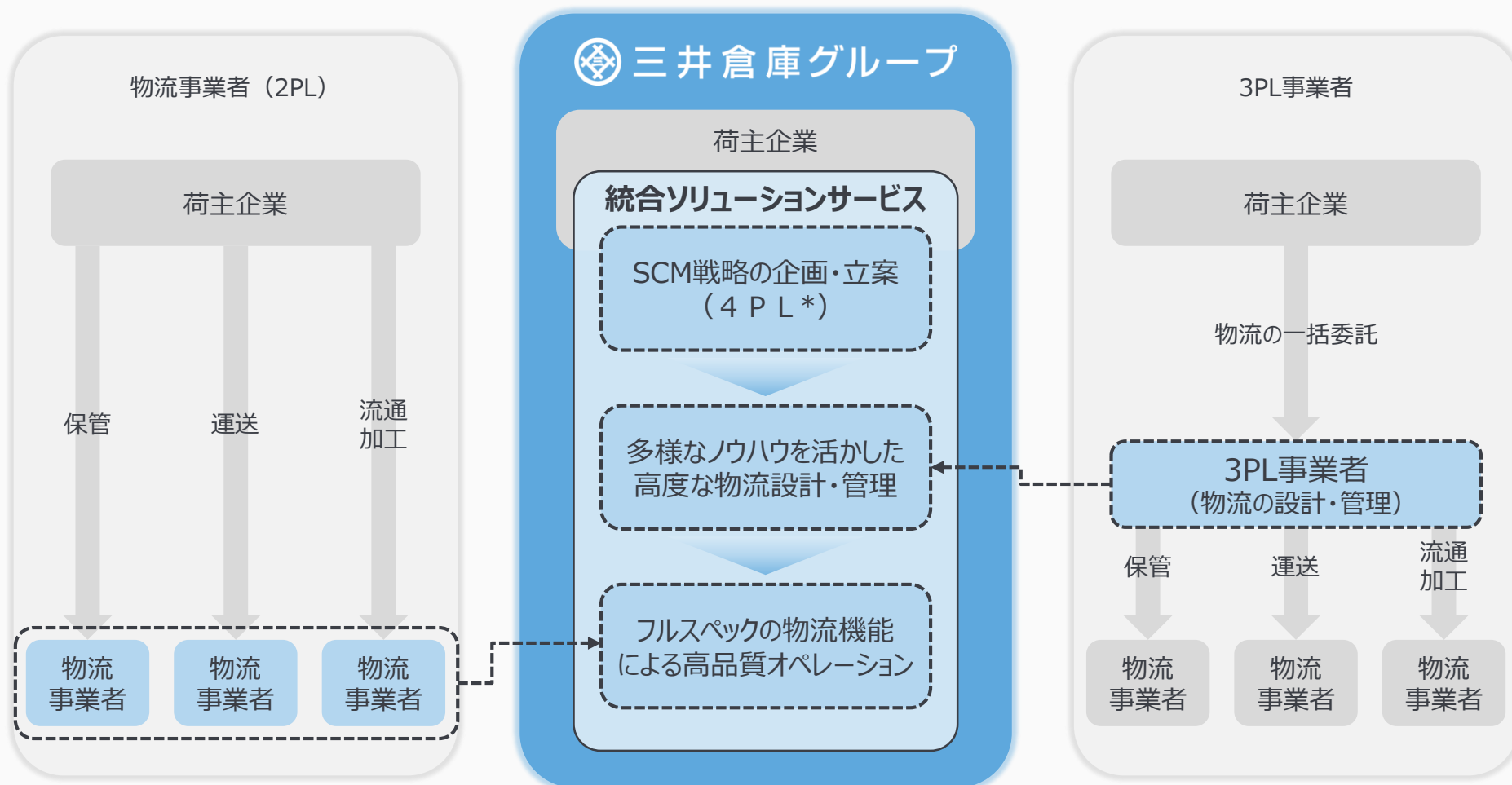
特に環境変化の激しい業界：当社が注力する領域



当社の強み

- 自動車/電子部品/家電の取扱ノウハウ
- メーカー視点のサプライチェーン構築支援ノウハウ
- 高度・再生医療に関する知見許認可を持ったヘルスケア貨物の取扱実績と品質
- 家電物流センター運営、共同配送、ラストワンマイル配送・設置・保守・修理まで担うテクニカルロジスティクスの実績

- 荷主企業と一体となり、物流に留まらず サプライチェーン全体の最適化を実現する差別化戦略



\*4PL (Fourth Party Logistics) : 荷主企業と一体となり、物流の管理だけでなく、顧客の経営方針に沿った物流戦略の企画立案を行う業務

# グループ総合力と、高度な物流ノウハウを活かし 社会変化やお客様のあらゆるニーズに対応

## 1 フルスペックの物流機能

- 陸・海・空すべてのフィールドでサービスを提供出来るフルレンジのラインナップ
- 調達・生産工程から販売までのサプライチェーン全体をカバーし、多様化する顧客ニーズに対応出来る体制



## 3 多様な人材 (専門性・スキル)

- 原材料から完成品、機密情報から医薬品・医療機器・治験薬まで幅広い取扱貨物に関する専門知識とスキル
- M&Aでグループ入りした、背景や文化の異なる多様な専門性とスキルを持つ人材

## 2 グローバルネットワーク

- 日本国内では約280拠点、全世界で約400拠点を有し、所管面積約232万㎡を誇るグローバルネットワーク
- アジアを中心に世界20か国に展開し、売上高の約24%まで拡大した海外事業

南北アメリカ	欧州・アフリカ・中東	南アジア・東南アジア
拠点数 16カ所	拠点数 31カ所	拠点数 30カ所
所管面積 46,817㎡	所管面積 53,007㎡	所管面積 421,478㎡
従業員 111名	従業員 490名	従業員 2,032名
北東アジア	日本	合計
拠点数 41カ所	拠点数 280カ所	拠点数 398カ所
所管面積 137,426㎡	所管面積 1,668,187㎡	所管面積 2,326,915㎡
従業員 533名	従業員 5,006名	従業員 8,172名

数値は2022年3月末時点

## 4 物流設計・オペレーションノウハウ

- メーカー視点の4PLの実績で培ったSCM戦略・物流設計ノウハウ
- トヨタ・ソニーグループの物流を長年支えてきた高品質・高効率なオペレーション

● 受託範囲拡大の好循環を支える当社のコアコンピタンス

コアコンピタンス

- ・ 多様な人材 専門性とスキル
- ・ 物流設計・オペレーションノウハウ (メーカー視点の4PL)

- ・ フルスペックの物流機能
- ・ グローバルネットワーク

SCM戦略

実物流

課題発見・分析

企画・設計

サービス導入  
オペレーション

評価・改善



物流ソリューションを提案・実現

実物流の受託範囲の拡大

情報を全体最適の視点で分析

実物流の情報をSCM戦略に還元

ビジネスモデル



- 「統合ソリューションサービス」の深化
- 積極投資と株主還元強化、高い資本効率の維持

## 「中期経営計画2022」サマリー（2023/3期～2027/3期）

・詳細は2022年5月10日公表の「グループ理念制定および中期経営計画 2022 策定のお知らせ」をご参照ください。

### 成長戦略

- グループ総合力結集によるトップライン成長
  - ① 統合ソリューションサービスの拡大
  - ② サステナビリティ対応ビジネスの拡大
  - ③ 業際の深掘
- オペレーションの競争力強化  
《 標準化の全社浸透・業務品質の向上・ローコスト化 》
- 深化を支える経営基盤の構築  
《 DX・共創・事業アセット・ESG 》

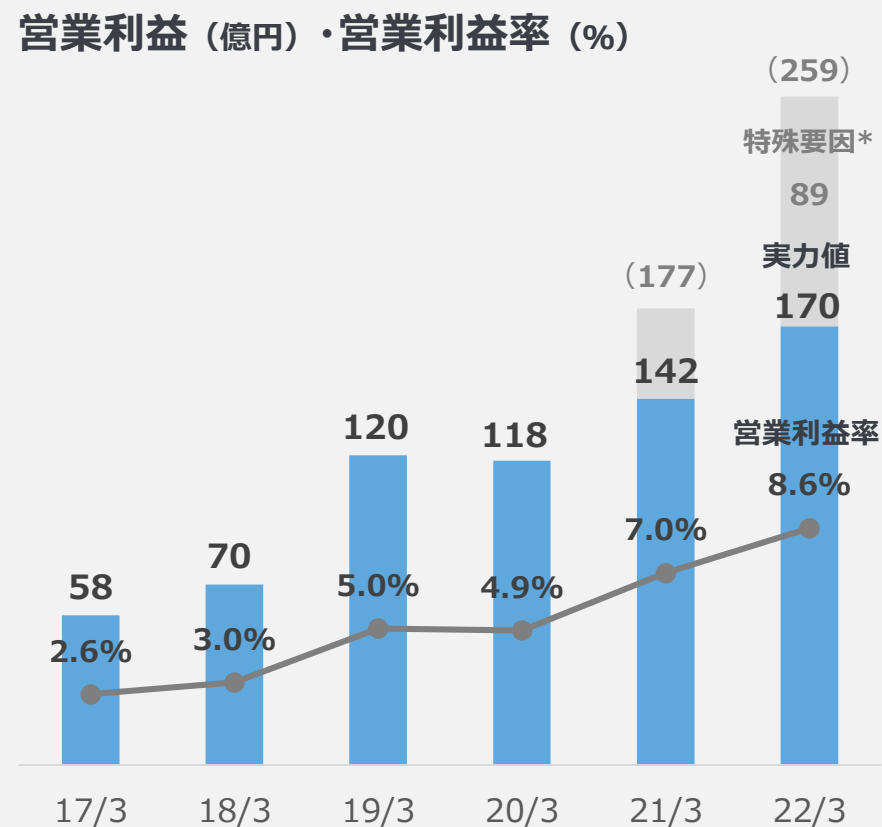
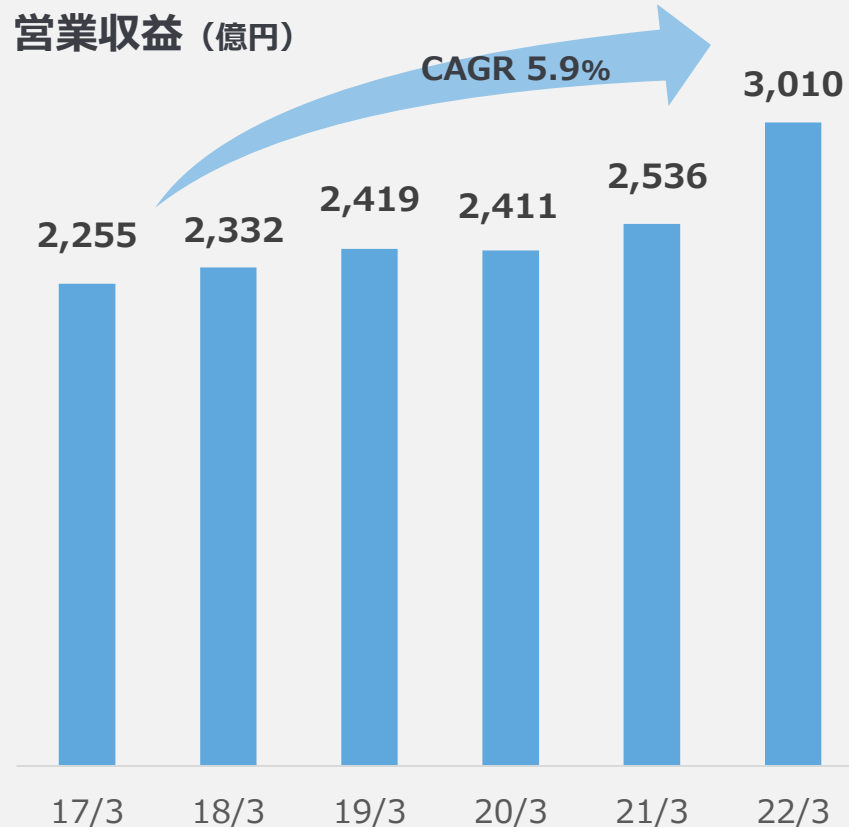
### 数値目標

2027年3月期	営業収益	営業利益	営業CF
数値目標	<b>3,500</b> 億円	<b>230</b> 億円	<b>300</b> 億円

### 財務戦略

- 投資： 総額**1,300**億円（5年累計）
  - 戦略投資**1,000**億円
    - DX投資
    - 新規設備投資
    - M&Aなど
  - 維持更新投資**300**億円
- 株主還元： 配当性向**30**%
- 財務規律： 最適D/Eレシオ**1.0**倍
- 資本効率： ROE**12**%超

- 営業収益 年平均5.9%成長
- 営業利益率 5年で2.6%→8.6%へ向上



\*特殊要因：新型コロナ禍のサプライチェーン混乱に伴う特需

- 様々な外部評価を取得、投資指数の構成銘柄に選定

ESG

MSCI  
ESG RATINGS

A

CCC B BB BBB A AA AAA



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

S&P/JPX  
Carbon  
Efficient  
Index

投資指数

 JPX-NIKKEI 400

 JPX-NIKKEI Mid Small

# 社会を止めない。進化をつなぐ。

## 三井倉庫グループ

### 三井倉庫ホールディングス株式会社 財務経理部（IR担当）

・ 各種お問い合わせ、IR取材の申込窓口

E-mail : [misc\\_ir\\_cacp@mitsui-soko.co.jp](mailto:misc_ir_cacp@mitsui-soko.co.jp)

WEBフォーム : <https://www.mitsui-soko.com/contact/>

・ 各種IR資料、決算説明会の動画配信

WEB : <https://msh.mitsui-soko.com/ir/>

### YouTube「三井倉庫グループ公式チャンネル」

（※リンク先は「YouTube」です）



当社グループの各種サービスや企業紹介等の動画コンテンツの配信を行っております。

- ・ 本資料は、会社内容をご理解頂くための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・ 本資料の中で、予想、見通し、目標といった歴史的事実でない数値につきましては、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因を前提に算出したものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。